

昭島礼拝 2020/6/28

聖書：エペソ 6:10-18

主題：御国に向かって

賛美：

みなさん、おはようございます。今日でエペソ人への手紙のシリーズも終わりとなります。今日は神様が与えて下さる武具について書かれている箇所を開いて頂きました。正史代が語っている教えは、平和についての教えですが、武器や鎧のことも書いてあります。こういう箇所を読んでいて、つくづく自分は男の子だなあと感じます。なんとなく「かっこいい！」と感ずってしまうんですね。「神様の光の武具！最強じゃん！」と感ずます。武具に惹かれると言うのは男の子っぽいですよね。この昭島教会の近くには横田基地があり、ときどき戦闘機も飛びますが、ものすごい音がします。妻は「なんなの！うるさい！」と迷惑な気持ち 100%だと思ってしまうのですが、ぼくも「うるさい！」と思う気持ち半分、「お！これは何の戦闘機だ？見てみたい！」とワクワクする気持ち半分になります。武器は戦うための道具です。ですから真の平和が訪れた時には要らないものはずです。しかしこの世界に生きている以上、悪との戦いは避けられない面もあります。神様が望んでいらっしゃる世界はもちろん武器の要らない平和な世界です。では、今日のこの箇所で語られている武具は何のために必要なのか、みなさんで一緒に見ていきたいと思ひます。

エペソ人への手紙を締めくくるにあたり、著者であるパウロは 6:10 で、「終わりに言ひます。主にあって、その大能の力によって強められなさい。」と語ります。そして神様の力である武具について語っています。パウロは他の手紙でも悪に対抗する戦いのことを書いていますが、このエペソ人への手紙のように

武具について、頭から足まで書いている箇所は他に無いと思ひます。珍しい箇所ですね。しかしインパクトが強いので、わりと有名な箇所でもあります。この武具がなぜ必要なのか、6:11-13 に書いてあります。それは一口で言ってしまうと、悪に対抗するためです。6:12 でパウロはこのように語ります。「私たちの格闘は血肉に対するものではなく、支配、力、この暗闇の世界の支配者たち、また天上にいるもろもろの悪霊に対するものです。」「私たちの格闘は血肉に対するものではなく」と書かれています。つまりこの世界のどこかの国と戦争するためのものではありません。あるいはご近所さんとケンカするためのものでもありませんし、家の中でけんかするためのものでもありません。聖書の教えをけんかのために用いてはなりません。聖書の教えは悪に対抗するためのものです。この神様の武具も、悪の力に対抗するためのものです。悪の力とは、神様から私たちを引き離そうとする力です。考え方だったり、時には強勢力を伴うものもあるかもしれません。私たちの外側から攻撃を受けることもありますが、多くの場合、悪の力は私の内側からやってきます。罪の力ですね。エペソのシリーズの途中でも一緒に見ました。罪は私たちを誘惑します。私たちを支配します。罪を選べることこそ自由だと言ひます。この力はとても強くて、私たちはその支配に置かれてしまうと、罪の道以外を選べなくなります。この暗闇の世界の支配者とは、悪の力、罪の力のことを指しています。

その悪の力、罪の力に対抗するには、自分の力では到底かきません。神様の力が必要です。6:10 にあるように、「主にあって、その大能の力によって強められ」る必要があります。ですからこの神様の武具というのは、すべて神様から頂くものです。自分たちで何とか作り出すのではなく、神様から頂きましょう。神様の前に自分には罪に対抗する力がないと素直にへりくだり、神様からこの力を頂きたいと思ひます。武具の中には、信仰の盾というものも出てくるのですが、信仰も神様から頂くものと言ひえるかもしれません。

さて神様から与えられる武具にはどんなものがあるでしょう。真理の帯、正義の胸当て(6:14)、平和の福音の備え(6:15)、信仰の盾(6:16)、救いのかぶと、御霊の剣(6:17)と挙げられています。細かく挙げられていますね。聖書にも軍人さんがたくさん登場しますが、ローマの兵隊はよく町で見かけられたと思います。当時のエペソの人たちにとっても、パウロにとっても、ここに書かれている武具についてはどんなものであるか何となく分かっていた事でしょう。ですからそれぞれの武具に込められている真理もあるかもしれません。しかし今は時間があまりないので、全部を細かく見ていくことは止めます。三つだけ注目したいと思うのですが、信仰の盾と、平和の福音の備え、御霊の剣について見ていきましょう。

まず信仰の盾と平和の福音の備えについて見たいと思います。6:16にはこう書かれています。「これらすべての上に、信仰の盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢をすべて消すことができます。」この盾は、「これらすべての上に」と書かれているほどですから、自分の身をすっぽり覆う事ができるくらい大きな盾であろうと思われます。新改訳 2017 では「信仰の盾」となっていますが、新改訳第三版では「信仰の大盾」となっていました。ギリシャ語には盾を意味する言葉が2種類あって、大きい盾と小さい盾を意味する言葉があるようですが、こちらは大きい盾を意味する言葉が使われています。ちょっとマニアックな話になりますが、古代ギリシャではファランクスと呼ばれる大きな盾と槍を持った兵士たちが密集して組む陣形があります。盾でほぼ隙間なくすっぽり自分たちを覆い、わずかな隙間から槍で相手を突き刺して攻撃します。このファランクスと呼ばれる陣形がそう簡単に破られない陣形なんだそうで、この時代の兵士たちの主要な陣形になったそうです。その陣形も肝となる、大きな盾ですね。体をすっぽり覆えるほどの大きさです。前から飛んでくる攻撃すべてをはじき返すことができます。エペソ 6:16 で「悪い者が放つ火矢をすべて消すことができます」と語っている通りです。

このように盾の特徴を見て、またエペソ 6 章の前後の御言葉を見ますと、この神様の武具は盾が大きな肝となる武具だと言えます。つまり悪い者からの攻撃に耐えるための武具、防御に適した武具なのです。攻撃するための武具というよりは、ありとあらゆる悪の力からの攻撃に耐えるための武具です。というのも、この悪の力に対する戦いの勝利はどこにあるのかを考えれば分かります。この戦いの勝利は、私たちが御国に行く事なのです。天国へ続く道が備えられていて、悪の力に耐えながらその道をゴールまでたどり着くこと、それが勝利です。6:15 には「足には平和の福音の備えをはきなさい。」とあります。足に「備え」をはくとは面白い表現だなと思うのですが、これは「すぐに対応するためのもの」という意味のギリシャ語の言葉が使われています。日本語では即応力という言葉になるでしょうか。平和の福音が実現した時には、すぐに対応できるものを履いておくという事です。裸足で砂利道を歩くのは大変です。靴を履いておけば、どんな道でも素早く移動できます。私たちの勝利のゴールである天の御国に速やかにたどり着くための靴です。例え道が険しくとも、平和の福音に向かって速やかに移動できる靴という意味でしょう。

このように私たちの悪に対する戦いは、相手を打ち倒すことではなく、相手の攻撃から逃れて神様の許へたどり着くための戦いです。すると相手を攻撃するための武器は必要ないはずで、御霊の剣は何のためにあるのでしょうか。私たちの勝利は天の御国へ、神様の許へ行く事です。そのための贖いのわざを神様は成し遂げて下さいました。神様の成し遂げて下さった救いこそ私たちの最大の武器です。6:17 では、御霊の剣は「すなわち神のことば」と語られています。聖書に記されているのは神様の救いです。またヨハネの福音書にはキリストが神の言葉であるかのように語られています。神様の救い、神様のことばは私たちを屈服させるためのものではありません。私たちの罪は滅ぼされますが、私たちの魂は神様によって救い出されます。つまり御霊の剣は悪を打ち倒

す力ではありますが、私たち人間を救い出すためのものでもあります。神様が世界の基の据えられる前から持っておられた計画を思い出して頂きたいと思えます。すべての者がキリストにあって一つとされること、それこそが神様の計画でした。それが実現される日こそ神様の勝利です。

その日の実現のために祈ることこそ、私たちが持つ最大の武器です。6:18には祈ること、特にすべての聖徒たちのために祈ることが書かれています。私たちは、神様が私たちをキリストにあって一つとされる費を待ち望んで祈ります。神様の計画は、「すべての者が」と私だけではなく、他の人もすべて含まれていますから、この神様の福音がすべての人に明らかにされるように祈ります。伝道の働きのために祈ること、そして自分も誰かに神様を証しするチャンスが訪れた時には、神様のことを宣べ伝えられるように、いつも聖書の神様の言葉を読むこと、これが御霊の剣を帯びるという事かもしれません。いつも聖書を読んでも、いざと言う時に、何を語れば良いか分からないかもしれません。でも大丈夫です。その剣の名前は御霊の剣ですから、神様の霊、御霊が私たちに語るべき言葉を教えてください。そして私がその人を救いに導くと言うよりは、その剣である御霊がその人を救いに導いて下さいます。私が何とかその剣をふるおうと頑張ると、誤って相手を傷つけてしまうかもしれません。剣ですから取り扱い注意です。しかし御霊がその剣を用いられるなら、その剣は相手の心を的確に射貫きます。そのためにも日々聖書に親しみ、周りの方々のために祈りたいと思えます。そのようにして、神様の平和が実現する時こそ、私たちの勝利です。

神の武具

悪魔の策略に対抗できるように(11-13)

真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の備え、信仰の盾、救いのかぶと、御霊の剣

神様の力によって強められる(10)

神様にある勝利

信仰の盾…忍耐、防戦

平和の福音の備え…贖いの日、天国に行くための準備 ここに勝利がある
とりなしの祈り

剣は何のため？

剣…神のことば、福音を知らせること(非難ではなく、贖罪の知らせ)

全ての者が…

御霊に満たされ、すべての者が一つとなるために祈る

伝道のため